

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

<p>◆学習のねらい 友達を仲間外れにせず、仲良くし、互いに助け合っていこうとする態度を育てる。</p>	<p>◆教育課程における位置付け 特別の教科 道徳（友情、信頼）</p> <p>◆主な使用教材 ・「およげない りすさん」（文部科学省『わたしたちの道徳』小学校1・2年）</p>
--	---

展開

	学習活動（◇教師の発問）	○指導上の留意点
5分 導入	<p>1 友達と一緒に遊んでいるときの気持ちを思い出す。 ◇ 友達と一緒に遊んでいるとき、どんな気持ちですか。</p>	<p>○ 児童の実態に応じて、学級の友達と一緒に遊んでいるときの気持ちを考えさせる。</p>
35分 展開	<p>2 教材「およげない りすさん」を読み、かめさんたちの気持ちを考える。 ◇ かめさんたちは、どんな気持ちで「りすさんは、およげないから だめ。」と言ったのでしょうか。 ◇ 島で遊んでいるかめさんたちは、どんな気持ちで遊んでいるのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【中心発問】にここにしているりすさんを見た、かめさんたちは、どんな気持ちでしょう。</p> </div> <p>3 友達と助け合ってよかったと思ったことはありますか。また、そのとき、どんな気持ちになりましたか。</p>	<p>○ 教材提示の際は、児童の実態に応じ、場面絵を活用した紙芝居等を活用する。</p> <p>○ 一貫して、かめさんたちの気持ちを考えることを確認する。</p> <p>○ あひるさん、かめさん、白鳥さんの立場に立った役割演技を行い、少しも楽しくない理由を考えさせる。</p> <p>○ 場面絵を用いて、みんなが笑顔であることを確認する。</p> <p>○ 個で考える時間を十分に設けて、書く活動や話し合う活動に取り組みさせる。</p>
5分 終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 教師が低学年のときに、助けてもらった経験を話す。</p>

授業を終えて

1組

物語の登場人物の気持ちを考える中で、友達と助け合うことの大切さに気付いていた。また、「友達とけんかをしたとき、仲直りをすすめてくれた友達のおかげで、素直に謝ることができてスッキリした。」など、自己を見つめる発言があった。

2組

「りすさんがいないと、つまらない。」「置いてきぼりにしちゃったから、楽しくない。」ことに気付き、「みんなで仲良く遊ぶと楽しい。」「仲間はずれにしたくない。」と考える児童が多くいた。一緒に遊ぶためにいい方法がないか考えることが大切であるなどの発言もあった。

3組

「りすさんの事が気になり、遊んでいても楽しくない。」「りすさんがかわいそう。」などの発言から、りすさんと遊んだ場面で、「みんなで遊ぶと楽しい。」「りすさんも大切な友達。」などの発言が出てきた。一緒に遊べる方法を考えたことで、みんなが楽しい気持ちになったと考える児童が多くいた。